

マニフェスト
鈴木やすともの政策提言

まや
す

浜松のこどもは浜松が育てる

❗ **こども第一主義**

市民の声が届く市政に

❗ **くらし満足度向上計画**

改革も企業誘致もまずトップから

❗ **‘07浜松改革元年**

新しいまちをつくる会 これは新しいまちをつくる会の政治活動政策パンフレットです。



鈴木やすともの宣言

無所属・市民派の 鈴木やすともだからこそできる

「しがらみのない真に市民のための市政」を
みなさんと一緒に実現し、
浜松を良くします。

(1) 浜松の危機 ~大きな借金・進む高齢化・産業の空洞化~

- 今の浜松には「元気」がありません。合併後の借金は大きく増えて、年間総予算の4,987億円を上回る5,595億円に(平成19年度当初予算)。
- 少子高齢化により、浜松市の高齢者人口は20%から18年後には30%に。すでに天竜区では高齢者が30.5%。福祉・介護・医療のために必要な予算は、これから急速に増えていきます。
- 合併で面積は6倍、道路延長は約2倍に。維持や修理にも予算がかさみます。
- 一方、これまでの浜松を支えてきた産業がつぎつぎと浜松市を出ていくという深刻な問題が生じています。このままでは働く場所が減り、人口が減り、市の税収も減ってしまいます。
- 卸・小売業の売り上げも減少を続け、中心市街地も年々衰退しています。格差が拡がり、市税・国保の滞納額合計は125億円。子育てや教育、福祉や介護も問題山積です。
- 浜松は今苦しんでいます。恵まれた環境にあぐらをかき、未来をしっかりと見据えた対応をしてこなかった結果がはっきりと出ています。だからこそ浜松は変わらなければなりません。合併政令市になった今こそ「元気で活力のある新しい浜松」をつくるためのチャンスなのです。

(2) 浜松を変えるチャンス ~新しいまちづくり~

- 皆様からお預かりした税金を1円たりともムダにはしません。市民の目線で、徹底してムダ使いをなくします。但し、ただ削るのではなく必要などころにはしっかりと予算をつけます。スピードある行財政改革と的確な予算措置で、新しい浜松の財政をつくります。
- 「子育て」と「教育」。「こどもたちこそ浜松の未来への宝」であり、明日の浜松の活力の源です。だから最も重要な政策は「こども第一主義」。浜松のこどもたちを浜松の地域力を結集してしっかりと育てます。
- 生まれ育った浜松市を、物心共に住みやすさナンバーワンの都市にするため、「ひとつの浜松」のパワーを結集し、「くらし満足度向上計画」を進めます。
- 深刻な産業の空洞化もくい止めなければなりません。今ある企業や産業はもっと発展させるとともに、新しい企業・産業の誘致や起業を促進します。
- そして市民や市役所の改革を言う前に、市長退職金の全廃と市長公舎の完全廃止など、まず市長自身の改革から始めます。

(3) 鈴木やすともの姿勢 ~トップが動けば浜松が変わる~

- 改革はまずトップから。トップが動けば浜松が変わります。私は2007年を新しい浜松の改革元年にします。
- 浜松はもっと発展する潜在的パワーを秘めています。そのために「スピードと実行力」で「元気な浜松」をつくります。
- 市民の皆さんの声をきちんと聞く。市民の皆さんにきちんと知らせる。私の基本姿勢です。浜松市の正しい状況を「市民の目線」でしっかりと知らせる情報公開を徹底します。
- しがらみのない、真に市民のための市政を実現するため、無所属・市民派として、広く市民の皆さんのご支援を頂きながら市政にチャレンジします。

平成19年3月16日

鈴木やすとも

鈴木やすとも

新しい浜松をつくる

3つの基本姿勢と7つの挑戦!!

3つの基本姿勢

7つの挑戦

浜松のこどもは浜松が育てる

❗ **こども第一主義**

1. **子育て世代を全力で応援** p4

2. **地域一体の教育で**

未来の浜松をつくる p6

市民の声が届く市政に

❗ **暮らし満足度
向上計画**

3. **住みやすさナンバーワンの
「ひとつの浜松」** p9

4. **安全・安心の医療と介護** p11

改革も企業誘致もまずトップから

❗ **‘07浜松
改革元年**

5. **スピードある行財政改革で
必要な財源をつくる** p13

6. **地元の産業のさらなる発展を
市長みずから先頭に立つ** p16

7. **トップが動く、
浜松が変わる** p20

1. 子育て世代を全力で応援

「こどもたちは浜松の未来への宝」です。だからこそ、「こども第一主義」を私の政策の第一に掲げます。

□ **乳幼児に加え、小学校・中学校まで医療費の助成を延長します**

- ✓ 現在の0～6歳までの医療費助成(本人500円/回負担)を、中学3年生(15歳)までに延長します。(現在0～6歳の助成14.7億円。追加分は、7～15歳の医療費が推定で0～6歳の約8割の11.8億円)

□ **保育園の待機児童ゼロを実現します**

保育園への入所を希望する子どもすべてが入所できるよう、保育所の整備、認証保育所の拡充を行い、多様化する保育のニーズに応えます。(平成17年待機児童309人)

- ✓ 保育所の新設(5カ所)、認証保育所の整備などにより待機児童ゼロ(定員500名増)を目指します。
- ✓ 幼保一元化に向けた取り組みを進め、既存の幼稚園での延長保育や一時保育など新しいサービスを充実します。(現在幼保一元化実施園はなし 5園で実施)

□ **出産助成金を創設します**

少子化対策として市独自の出産助成金10万円を新設し、子どもを産みやすい環境をつくれます。

- ✓ $7,200人 \times 10万円 = 7.2億円 / 年$

□ **母子家庭への2人目・3人目の児童手当の拡充を図ります。**

2人目	5,000円を10,000円に
3人目以降	3,000円を10,000円に

□ 産科医療を充実させます

浜松医療センター周産期センターの整備・拡充を進め、「浜松なら安心して産める」環境づくりを推進します。

- ✓ 限られた数の医師を有効に活用するために、カウンセラーやメディカルセクレタリーなどのCo - Medicalを充実、医師が医療に専念できる環境をつくりま
す。
- ✓ 助産士資格を持つ看護師の産科での活用を図ります。

□ 小児救急医療体制を強化します

- ✓ 小児科医を拠点化・集中化し、深夜・休日の救急要請に応えられる体制を、
医療関係者の協力を得て構築します。
- ✓ 浜松医療センターに、小児救急救命センターの設置を検討します。

2. 地域一体の教育で

未来の浜松をつくる

「浜松のこどもは、浜松の地域力を結集して育てる」

地域の人たち、元気なシルバー世代にもお手伝いをお願いし、**地域と一体**になった教育の推進により、**未来の浜松**をつくります。

□ **30人学級導入を目標に 少人数化を進めます**

児童・生徒ひとりひとりにしっかりと目を向け、いじめや不登校、落ちこぼれを出さない教育環境の創造を目指します。

- ✓ 30人学級制を、まず低学年(小学校1～2年)を対象に導入します。(目標平成20年度開始)
- ✓ 最終的には中学校まで30人学級とする計画を立案します。(将来目標)
- ✓ 退職教員の再雇用制度を構築し、必要な教員を確保します。

□ **「浜松教師塾」を創設し、人材づくりに努めます**

教員の資質の向上のため「浜松教師塾」を創設します。同時に民間から学校長への登用などを行い、教育現場を活性化します。

- ✓ 「浜松教師塾はあらゆる教育関係者(公私立学校・塾など)を対象とし、現場での問題点やこどもの実態を相互に報告・相談できる場にします。
- ✓ 教育委員会がコーディネーターとなり運営を行い、一般にも公開し、若手教師や保護者も公聴できるようにします。
- ✓ 新しい目で学校教育を見直し、スピード感や経営感覚を学校経営に導入するためのモデル的な民間人校長の導入を試行します(1区に1校を目標)。

□ **スクールサポーター制度を導入、地域の力で育てます**

退職教職員や、優れた知識・技能を持ったシルバー世代のボランティア型のスクールサポーター制度を学校ごとに導入します

- ✓ 学習やスポーツ指導による落ちこぼれ防止、そろばんや習字といった伝統を受け継ぐ習い事、外国人子女への日本語補習などを無償で受けられるプログラムを導入します。(放課後子どもプランを活用)
- ✓ シルバー世代の生きがいづくりにも活用します。

□ **「食育」を推進します**

地産地消・食育の観点から浜松の地元の食材や、炊きたてのご飯などの温かい給食で「食」を通じた教育を推進します。

- ✓ 農協、漁協等との協働により、地元の特産品を給食に取り入れ、自然と郷土への愛着・感謝の心を育てます。

□ **「共生・共育」で豊かな心を育みます**

障がい児が地域の中で、共に豊かに生活できる社会づくりに努めます。

- ✓ 小中学校に養護学校を併置したモデル校を作ります。
- ✓ スポーツや文化活動、共同学習や地域活動への共同参加により、障がい児と健常者との触れ合いを通じ、発達を支援すると共に、健常者の心や感性も豊かにするような教育を推進します。

□ **外国人子女の就学を支援します**

浜松市における学齢期の外国人子女の就学率は79.9%(旧浜松市、H17年)と約2割のこどもたちが学校に通っていません。このままでは、母国語も日本語も両方とも満足に話せないまま大人になってしまいます。日系の外国人ともしっかりと共生できる社会をつくるために、公・私立、何れかの学校に就学できるように支援します。

- ✓ 公立校の補助教員を充実し、外国人子女を応援します。
- ✓ 外国人学校への支援を強化します。

□ 科学・理数教育を推進し、未来の人材を育てます

- ✓ 科学や理数科目への関心を高めるため、浜松独自のカリキュラムを実施します。そのために必要な部署を教育委員会に設け、企業や大学とも連携して未来の人材を育てます。

□ 「こども安全課」を新設し浜松のこどもを守ります

地域との協力により通学の安全確保、いじめ防止などを推進する「こども安全課」を市役所に新設します。

- ✓ 地域住民の協力を得て、朝夕の登下校時に行われている危険箇所での「みはり番」の活動を拡大します。
- ✓ 通学路の安全確保のため、主要な通学路への歩道の設置を道路整備の最重点事項とします。
- ✓ 「こども生活ホットライン」を設け、いじめなどこども達の悩みに答えます。

□ 教育施設の100%耐震化を進めます

こどもの命は何よりも大切。教育施設の耐震化100%を目指します。

(現状:公立小中学校の耐震化率75%、公立幼稚園90%)

□ メディアリテラシー(インターネットや携帯電話を正しく利用する方法)を教えます。

インターネットなど情報通信の正しい利用方法や情報の正しい理解の仕方などを教え、情報があふれる時代を生き抜く力を育てます。

3. 住みやすさナンバーワンの

「ひとつの浜松」

「一市多制度ではなく、ひとつの制度に。」自治会と地域協議会が並立する複雑な自治の仕組みをもっとシンプルに。市民にとってわかりやすく、市民の声が直接市長までとどく、一体感のある「ひとつの浜松」をつくります。

「ハコ物行政から、生活者が満足できる行政へ。」ハコ物ではなく、生活基盤・産業基盤となる道路などのインフラ整備や、市民の生活に密着した子育て・教育・介護・医療などのソフト事業に重点をおき、生活者が本当に満足できる市政を目指します。

老人も子供も、山間地も中心部も、浜松生まれもブラジル生まれも、障害のある方も健常者も、浜松に住んでいる人はみな「ひとつの浜松」の市民です。「共助と共生」の考え方に基づき、住みやすさナンバーワンの浜松を実現します。

□ 一市多制度ではなく一市一制度が基本です 「ひとつの浜松」には「ひとつの制度」

「ひとつの浜松」にいくつもの違う制度を残しても混乱や不公平感を招くだけです。行政サービスは、合併した新浜松市の全ての地域で一律でなくてはなりません。その上で、地域の個性を活かすための特例措置が必要なところには、その理由付けをはっきりと示します。

□ 地域協議会と区地域協議会の二重構造を解消し、 自治の仕組みをシンプルにします

- ✓ 地域協議会は区地域協議会に一本化します。
- ✓ 区地域協議会の構成員は、各自治会の代表者を基本に有識者を加え構成します。

□ 防災統括監を新設します

市の防災統括監を新設し、万が一の事態に対して、万全の備えで対応できるよう警察・消防や自衛隊などとの連携強化を行います。

□ 浜松に元気な中心市街地を取り戻します

安全に、楽しく歩き回れる中心市街地をつくる。活気あふれる元気な中心市街地を取り戻すために、浜松独自の「中心市街地のビジョン」を作ります。

- ✓ 市営駐車場の週末(土・日)の駐車場料金を値下げし、まちなかに出てきやすい環境をつくります。
- ✓ 中心部は、地下道を使わずに歩いて買い物が楽しめるようにします。
- ✓ 有楽街への交番設置を県に働きかけます。
- ✓ もう一度、まちづくりの計画をゼロから作り直します。計画立案にあたっては、地権者や商業者だけでなく、実際にまちなかに出てくる市民や、浜松を支える産業など各分野の声を反映していきます。

□ 「浜松地域人づくり大学」を設置、新しい人材を育てます

社会貢献意欲に燃える人材を育て、行政が行ってきたサービスをNPOや市民が担う社会を目指します。

- ✓ 市民ヘルパー養成講座や子育て支援講座、救急活動講座、観光おもてなし講座など、地域の人材を育てます。

4. 安全・安心の医療と介護

浜松市での高齢化率は、市町村合併によりH17年で19.4%に上昇しています。とりわけ、旧佐久間町では44.8%、旧龍山村で42.3%、旧水窪町で40.5%と県内でも飛びぬけて高齡化が進んでいます。

過疎地でも不安なく生活ができるように消防・救急体制を強化・拡充します。一人暮らしの老人でも安心して暮らせる社会を目指します。

□ 生まれ育った地元で介護が受けられる施設の整備をすすめます

今後需要が予想される在宅介護の支援措置として、地域のサービス拠点である小規模多機能型居宅介護サービス施設(要介護者の住み慣れた地域で、通いを中心として訪問や泊まりを組み合わせ、日常生活の支援を行うサービス)を整備します。

- ✓ 日常生活圏域に1ヶ所ずつ、計24ヶ所の整備推進をしっかりと進めます。

□ 障害者自立支援法による本人負担額の助成を行います

障害者自立支援法により新たに発生した本人負担額分(1割)については同法の運用の動向を踏まえながら、市民税非課税の方を対象とする助成事業の拡大を検討します。

□ 障害者の就労支援、小規模授産施設等への支援

働く意欲や能力のある障害者の就労を、市、養護学校、ハローワーク、福祉サービス事業者、NPO団体、社協、企業など関係団体が地域ネットワークを組織し、一丸となって支援する体制づくりを行います。

□ 高齢者ふれあい事業による介護予防を推進します

寝たきりや認知症の最大の原因は、意欲や気力がなく、外に出かけないことにあります。高齢者の健康や生きがいづくり、仲間づくりや健康のための地域型のふれあい事業を推進し、元気な高齢者を増やします。

- ✓ 地域型の生きがいづくり事業を進めます。
- ✓ 「市民ヘルパー養成講座」を実施し、市民の介護への理解を深めます。（「浜松地域人づくり大学」を活用）

□ 誰もが必要なサービスを利用しやすい環境をつくります

- ✓ 福祉サービスや介護保険の申請などを、利用者や周辺の方々に分りやすく説明する機会を増やします。
- ✓ 社会福祉協議会などとも協力し、地域福祉権利擁護事業をニーズに合わせ拡充強化します。

□ 山間地域の救急医療体制を拡充します

夜間や悪天候時でも24時間救急救命体制が確立できるよう、ドクターヘリ（聖隷三方原病院）との組み合わせで、佐久間病院を基点とするドクター・カー（救急車よりも早く必要な措置が行える）を配備するとともに、医師の増員を図ります。

□ 浜松医療センターの経営を強化します

浜松医療センターと市リハビリテーション病院を運営する医療公社は17年度末の累積赤字が約3億5000万円にのぼっており、抜本的な改革が求められています。

- ✓ 医療現場と経営部署をはっきりと分けて、全体の経営効率を改善します。
- ✓ 病院経営のスペシャリストを民間から招き、民間病院のノウハウをセンターに導入します。医師が質の高い医療を提供できる体制をつくります。

5. スピードある行財政改革で

必要な政策のための財源をつくる

浜松市の年間総予算4,987億円に対し、借金は5,595億円(平成19年度)。その上合併で3,540億円もの事業を約束しました。さらに少子高齢化が進み、介護や医療のためにはもっとも財源が必要となります。夕張市の破たんは対岸の火事ではありません。だから、必要な政策を実現するためには、浜松市でも**徹底した行財政改革**、それも**スピードある改革**によって財源を産みだすことが求められています。

市政の透明度を高めるための情報公開の実現、全事務事業の見直しなどを進め、市職員のパワーをもっと引き出して改革を推進し、必要な財源を確保します。

□ **徹底した情報公開・情報公開日本一を目指します。**

- ✓ 議事録は配布資料を含め、ホームページ上で公開します。
- ✓ 官庁用語を廃し、できるだけわかりやすい言葉でお知らせします。
- ✓ 市長交際費は相手先も含めて100%公開します。
- ✓ 市議会と協力し土日・夜間議会を開催、市民の傍聴機会を増やします。
- ✓ 指定管理者制度の選定委員は市職員以外の第三者を加えるなど、説明責任を果たします。

□ **全ての事務事業を見直し行政のスリム化を図ります**

市の全事務事業の見直しを行い、不要な業務の洗い出しを行います。

- ✓ 行革審の答申に基づいた行政経営計画による効果額(平成21年度までの4年間で190億円)に対して、さらなる上積みを行います。(住居手当、通勤手当、その他諸手当の見直し、新市建設計画の見直し、市税・国保料滞納対策等を含む)
- ✓ 6,370人の市職員(H18年4月1日)に対する定数削減については、退職不補充・自然減により、毎年150人の削減を行い9年目で5,000人体制を目指します。(これにより9年間の累計財政効果額は約540億円を見込む)

□ 負債を削減、こどもにツケは回しません

- ✓ フォルテを売却し、市の税金による補填を中止します。(財政効果額4年間で7.2億円/年)
- ✓ 阿蔵山の宅地開発事業については、事業をいったん凍結した上で、早急に対策を決定します。
- ✓ 船明地区の区画整理事業(47.8ha)は、宅地としての開発は中止し、浜松市の木材センターや新バイオマスセンターとして活用するなど代替案をつくりま

す。

□ 創意と工夫で市民サービスを向上します

「行政だから民間とは違う」という発想では何も始まりません。民間のいいところをどうやって取り入れていこうか、という意気込みが大事。市職員のパワーをもっと引き出し、創意と工夫で市民サービスの向上を目指します。

- ✓ 民間ではサービス業は土日オープンが基本。市民へのサービス向上と職員意識改革のために、まず市内43ヶ所の市民サービスセンターは土日オープンを実施します。
- ✓ 国の市場化テストの動向をみながら団塊の世代の大量退職等をふまえ、窓口業務の民間委託化を進めます。
- ✓ 事務事業全般の民間委託化のスピードアップを図ります。
- ✓ 職員の繁忙に合わせた柔軟な人員配置のできる仕組みを作り、職員の知恵と工夫で平成19年度に残業・休出の2割削減を行います。(年間効果額約3億円、4年間で12億円)

□ 審議会や委員会の適正化

浜松市の審議会や委員会の委員をご都合主義で使うのはやめ、市民の本当の声を聞きます。

- ✓ 新たに設置された地域協議会を加えると、浜松市の付属機関(審議会・委員会等)や執行機関の委員の数は合計約2,000人、報酬や費用は2億円を超えます。それぞれの審議会・委員会の必要性、委員の数の見直しを行います。(2割見直しで4年間で1億6千万円以上の削減)
- ✓ 審議会や委員会の委員は原則1期を2年とし、継続的な任命は2期までとし(現在10年または3任期)、委員の兼務については最大2つまで(現在兼務は5つまで)とします。こうして、限られた人が市政に関与するのではなく、できるだけ多くの人が市政に関与できるしくみをつくります。
- ✓ 報酬額や費用弁償の額についても、ボランティアが基本であるという考えで見直します。

6. 地元の産業のさらなる発展を

- ものづくり産業
 - 農林水産業
 - 商業・観光業

市長みずから先頭に立つ！

地元の産業も大事な浜松市民のひとり。市長みずからが率先して動き、本当に必要なニーズを実現します。

土地の規制緩和や新産業の誘致、新規の起業を支援するなど、元気な浜松を再生するための施策をスピーディに展開します。

さらに、農林水産業を始めとしたあらゆる分野の浜松ブランドを、日本国内だけでなく海外へ発信。一方で、国内・外からの企業誘致も積極的に行い「アジアで一番輝くモノづくり都市・浜松」を目指します。

□ 「モノづくりのまち・浜松」をさらに発展させます

楽器がなくなる、オートバイがなくなる、かつてのモノづくりのまちは、企業流出が始まり危機的な状況です。企業が浜松市から流出すれば、下請けもまた出ていかざるを得ない。働く場所が失われ、法人市民税の約50%を占める製造業からの税収も減っていきます。こうした空洞化現象を阻止し、また全国第二位という面積を有することになった浜松へ積極的に企業を誘致します。

- ✓ 企業流出の原因は硬直化した土地政策。今までの土地政策を転換し、区画整理事業・土地利用計画・都市計画法の運用の見直しをトップダウン方式によりスピードアップ、市街化調整区域の規制緩和を実施することなどにより十分な企業用地を確保します。
- ✓ 「工場拡張・移転支援室」を創設し、企業の工場拡張、移転などに関する専門の相談窓口とし、同時に市役所内部での横断的な調整を行いワンストップサービスを可能とします。

□ 農業先進地域である浜松の農業をさらに進化させます

農業生産高が全国有数(全国第4位)という農業先進地域でもあるこの地域の農業を次代の担い手の育成などを進め、さらなる発展への基盤を作ります。また、現場の声を重視して、地域の計画を支援する「地域提案型農業政策」を推進します。

- ✓ 「新規農業者養成塾」を農協などと共同して推進し、担い手の育成により農業の持続的発展を推進します。インターン制度や新規開業時の資金融資を支援します。
- ✓ ファーマーズマーケット(直売所)の拡大や、学校給食への地元農産物の利用推進により、地産地消を促進し、浜松の農産物の消費拡大を図ります。
- ✓ 遊休農地を活用する「農地銀行」を支援します。また市民農園整備事業を拡充し、シルバー世代の生きがいをづくりを支援します。
- ✓ 農業に付加価値をつけるオーガニック(有機栽培)野菜づくりを支援します。

□ 森林の活用と保全を図り林業を振興します

森林面積(103ha)が浜松市全体(151ha)の68%。広大な森林の活用と保全を図ります。

- ✓ 援林ボランティアを育成し、森林の保全や育林活動への市民参加ができる仕組みをつくります。
- ✓ 新たな担い手を創出する「林業担い手創出事業」を県と協力しながら進めます。市内外からの労働力が参入しやすい環境づくりを支援します。
- ✓ 地元材の需要拡大のために、“百年住居る事業”の拡大と公共施設への地元材の利用の拡大を図ります。
- ✓ 船明地区の区画整理事業は宅地開発を止め、浜松市の新バイオマスセンターや、木材センターとしての活用を図ります。
- ✓ 林道の整備を進めます。

□ 浜松の水産業ブランドを観光との組み合わせで 全国に発信します

遠州灘・浜名湖などの漁場に恵まれた浜松市、「浜名湖うなぎ」、「遠州灘天然トラフグ」をはじめ、しらす、海苔、あさりなどの地域ブランドを、より強力に全国に発信。水産業の振興を図り、これと連携した観光産業の振興も推進します。

- ✓ 沿岸水産資源の枯渇を防ぎ、水揚げの安定化を促進するため、放流(栽培)事業の支援を進めます。
- ✓ あさりを始めとする水産資源の豊富な浜名湖の環境・水質を保全・改善していくことは、行政の重要な責務です。浜名湖の水質維持を積極的に推進します。
- ✓ しらす、海苔、あさりなど安定供給が可能な加工品から学校給食へ取り入れていきます。また、これらの認知度を全国的に高めるようにトップセールスで売り込みを行います。

□ 新しい浜松市が持つ多種多様な資源を活用した 観光振興策を推進します

浜松市内外からの観光客等交流人口を増やし、地域を活性化します。浜松市の豊かな自然や温泉をはじめ、伝統・文化や町並み、地域の食文化や特産品、体験型の観光活動に加え、モノづくり産業を中心とした産業観光など、新しい浜松市の多様な地域資源を最大限に活かした観光振興を進めます。特色あふれる浜松の観光資源をブランド化し、市長みずから国内外に売り込みます。

- ✓ 浜松の自然資源(森林から川、湖、遠州灘まで)の活用や、地元の農林水産業との連携で、アグリツーリズムやエコツーリズムといった環境負荷が小さい持続可能な観光を進めます。
- ✓ 市長みずからが、あらゆる機会をとらえ、トップセールスで「浜松ブランド」をアピールし、積極的に誘客を図ります。また、観光振興に当たっては、浜松市民の参加が不可欠。市民参加型の観光を推進します。
- ✓ 浜松地域ブランド「やらまいか浜松」を商工会議所とともに推進し、浜松のイメージアップや差別化を図ります。
- ✓ 舘山寺温泉など有数な温泉地の再生を図ります。時代の変化に対応し、個人・家族客をターゲットとした温泉観光地を形成します。そのために、ホテル・旅館等の中小企業への融資制度などにより支援をします。

□ 起業・創業支援や、既存の小規模事業者支援を行います

「はままつ産業創造支援センター」を活用し、地域に根ざしたコミュニティビジネスの事業化や起業を市がサポートします。小規模事業者を支援するため、融資制度や経営サポート体制を充実させます。

- ✓ 「浜松起業・新事業応援ファンド」を創設し、起業や市民の積極的なチャレンジを力強く応援します。
- ✓ 商工会議所、金融機関などと連動し、「起業セミナー」「株式公開塾」などを実施することにより新規事業者を増やします。
- ✓ 浜松の強みである「地域資源」(繊維・機械産業の技術・みかんやお茶・うなぎやトラフグ・浜名湖や天竜川の観光資源)のブランド化を推進し、大都市圏や世界市場への展開も視野に入れて、地域資源の企業化による新事業展開を支援します。
- ✓ 小規模・零細事業者の頑張りを応援するために、国とも連携しながら融資制度の充実を図ります。
- ✓ 「会社」と「組合」の“いいところ”を組み合わせた新事業体LLP(有限責任事業組合)制度を市として積極的に推進し、LLPを使った新規事業日本一を目指します。

□ ザザシティ問題を解決します

- ✓ 議会に一回否決されたら、あとは問題を放置・傍観している現状は責任放棄と言わざるを得ません。この結果、国や県の信頼を損ない、市民の信頼も損ない、また中心市街地の商業者の信頼も損なっています。
- ✓ 市はザザシティの問題を先送りする一方で、松菱跡へは関与を深めています。このような市の姿勢は改め、まず先に問題の方を解決すべきです。
- ✓ 組合・金融機関と解決に向けたひざ詰めの交渉を行い、解決策を議会・市民に諮ります。

7. トップが動く、浜松が変わる

改革も企業誘致もまずトップが動かなければ何も変わりません。

2007年を「浜松改革元年」と位置づけ、まず市長自身の改革を進めます。

浜松ブランドの売り込みや、企業誘致は市長自身がトップセールスマンとなって、日本全国、さらにはアジアを駆け回り「浜松市」を強力に売り込みます。

□ 「退職金ゼロ・市長公舎の完全廃止」を直ちに実現します

4年間ごとに3,340万円もの退職金を手にし、しかも家賃タダの市長公舎に住み続けることは、市民の目線で見れば尋常ではありません。まず行財政改革をリードする市長みずからが襟を正します。

- ✓ 「退職金ゼロ」を直ちに実現します。
- ✓ 会議棟も含め、市長公舎を全面的に廃止します。

□ 市長が浜松のセールスマン、「浜松ブランド」を発信します

浜松をアジアを中心に世界に紹介、浜松からブランド発信するとともに、世界のものづくり企業の日本での拠点や研究所を浜松に誘致します。

- ✓ 海外の見本市に積極的に出展し、浜松ブランドの特産品を積極的に紹介。同時に浜松市そのものをトップセールスで市長自ら売りこみ、企業誘致につなげます。
- ✓ 浜松のものづくり企業から海外に出張・駐在するビジネスマンこそ、浜松の強力なサポーターです。浜松市認定サポーターとして浜松ブランドの売り込み、企業誘致のきっかけを市民レベルで展開します。



やす
す!

新しいまちをつくる会

〒433 - 8123 浜松市幸4丁目4 - 8

TEL 053 - 476 - 5772

<http://www.yasutomo-net.com>

E-mail yasutomo@yasutomo-net.com